

新居・新生活にお手軽パワースポット！「えんぎもの おもと」 徳川家康が江戸城で繁栄を築いた立役者が、412年の時を越えて 春の転勤引越シーズンに縁起がいい贈り物として密かに人気再燃！

岡崎で伝統園芸「万年青（おもと）」を生産・販売する宝生園（愛知県岡崎市、代表 水野圭子）は、パワープランツ「えんぎもの おもと」として「万年青」をリブランディングし、発売いたします。またそれに伴い、ガラスポット（瓶）に入った、手軽に万年青を楽しめる新商品も発売。

伝統園芸である万年青は、徳川家康が江戸城築城の際、家臣から贈られたことで、繁栄の立役者として脚光を浴びた植物。パワースポットやパワーストーンなど、運気が上がる場所や物がブームとなる中、江戸城築城から412年、密かな人気になりつつあります。



←室内になじむ
ガラス瓶入り万年青
「OMOテラリウム」

伝統的な万年青→
鉢も特徴的



▼（背景）引越しに欠かせないパワープランツ「えんぎもの おもと」

伝統園芸である万年青は、1590年に江戸城本丸御殿が完成した際に、徳川家康が家臣から万年青を3鉢寄贈されたことで、繁栄をもたらす植物として、引越しの際、縁起物として贈られ、昭和初期に至るまで重宝されました。しかし、生活が西洋化し、マンションも増える中で、昭和後半頃より人気は下降し、現在では「万年青」を知らない年代も増えています。

近年、運気の上がる場所や物が好まれる傾向が強いことを受け、同社は二年前より首都圏や地元・岡崎でのワークショップなどを実施。ワークショップ一回あたり30～50名の参加者が集まるなど、万年青に興味を持ち、育てる若い女性たち“万年青女子”が、徐々に増え始めています。

今回、万年青を「えんぎもの おもと」とリブランディングすることで、スピリチュアルファンをはじめとした万年青になじみにない若者にダイレクトに届けたいと思っています。



▼（新商品展開）マンションでも簡易に育てられる「OMOテラリウム（オモテラリウム）」

ポットに入った「OMOテラリウム」を2月25日に新発売します。通常、万年青は専用の三本足の鉢に入れ、屋外で育てる植物です。しかしながら、生活様式の変化からマンションなど庭がない人も多いため、リブランディングをする機会に、室内でも簡単に育てられるようポットに入れた商品を考案しました。

手入れも簡単で、年3～4回の水やりのみのため、引っ越し直後ではたばたとする相手にも手間をかけない贈り

物。また、ハイドロカルチャーとデコジャリは水が通るように固めてあり、輸送でもばらついたりしないよう配慮されているため、遠方へ贈ることも可能です。

「えんぎもの おもと」をもっと気軽に贈り、育ててもらいたいと思っています。伝統園芸としては、これまでの発想を覆す大きなチャレンジです。

【商品概要】

商品名 OMOテラリュウム（オモテラリュウム）

価格 3,000円～（税抜）

仕様 万年青、ドイツ製高機能ハイドロカルチャー、「デコジャリ」（日本の伝統を生かした瓦を使用したカラー砂利）

※デコジャリ5色（金、メタリック、赤、緑、ブロンズ）ラインナップあり

販売 宝生園店頭ほか、購入用カタログの郵送もあり

WEB URL <http://www.housyouen.jp/index.html>

▼（参考情報）パワースポット、パワーストーンなど運氣上昇・ご利益のブーム

アメリカ発の「ニューエイジ・スピリチュアルブーム」が日本に上陸したことをきっかけに、2000年代にスピリチュアルブームが起きたことから、パワースポットやパワーストーンなど運氣が上がるものやご利益があるものがより注目、重宝されています。

▼（参考情報）3月4月は転勤シーズンで、引っ越しも多い

3月は企業の転勤や異動、新学期に合わせた居住環境の変更などによる引越しが増えます。

※参考：総務省統計局『住民基本台帳人口移動報告 平成29年住民基本台帳人口移動報告』



▼（問い合わせ先／企業概要）134年続く伝統園芸・万年青（おもと）の老舗・宝生園

明治18年、初代が東京・駒込で創業。

現在の代表者・水野圭子は4代目。3代目の水野輝男と4目水野圭子の父娘により、6つの登録品種（宝生園独自の品種）を生むなど、常に新しい取り組みを続けている。



【取材申し込み先】 宝生園 水野圭子
Tel: 0564-51-2265 mail: info@housyouen.jp

●お問い合わせ先：岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz

Tel: 0564-26-2231 Fax: 0564-26-2232 担当：高嶋、武田（水・日曜日を除く／9:30～17:00）